

ナニワ人情 外国人魅了

表題と写真は、毎日新聞 10 月 3 日夕刊「eye」による。大阪といえば「なんば・道頓堀」と「通天閣界限」。大学院の頃からよく通ったので、これまでも何回かレポートしてきた。この写真を見て、その変貌ぶりにあらためて驚いた。写真上はイギリスから訪れたインド人観光客という。記事を要約しよう。

コテコテで知られる大阪の繁華街が、外国人でにぎわっている。昨年 1 年間に外国から大阪府を訪れた観光客は 376 万人で、過去最高を記録。今年はさらに記録を更新し、500 万人を突破する勢いだ。



人気の秘密はずばり、「おいしい食べ物と人の面白さ」という。大阪・ミナミをエンジョイする外国人観光客の姿を追った。府市などにつ

くる大阪観光局によると、来阪する外国人観光客数は右肩上がり。昨年は前年比 114 万人増で、今年も上半期だけで 320 万人を記録。円安や関西国際空港を利用する格安航空会社(LCC)の増便などが背景にあるという。

訪れた外国人に聞くと、京都や奈良とセットで楽しむケースが多いが、その中で人情と食い倒れという大阪の魅力がネットやロコミで海外に広がっている。

日雇い労働者の街、大阪市西成区のあいりん地区にも変化が起きている。多くの簡易宿泊所には外国語が並び、ロビーで談笑するなど外国人長期滞在者の交流の場になっている。今や宿泊客のほぼ半分は外国人だ。1泊 2000 円前後と安価で、ネット環境もそろっているのが魅力という。



外国人の急増に浮かれているわけではない。三つの簡易宿泊所の統括マネージャー、森川善樹さん(40)は「安さだけが魅力なら将来はない。円安などによるブームで終わらないよう、沿線一帯のブランドを上げたい。西成・新世界に来れば日本を楽しめるという場所にした」と話す。

(2015 年 10 月 12 日)